

## 幻想文学の「幻想」とは何か —超自然的な事象の表現方法を知る—

村松 彩香

文学の一ジャンルとして「幻想文学」というものが存在し、定義は「超自然的な事象を題材とする文学の総称」である。この幻想文学であるが、「何をもって幻想文学に分類するか」という明確な基準が存在せず、そもそも「幻想」という語自体の意味がはっきりしたものではない。

そこで本研究では「幻想文学への理解を深め、より読みやすく・楽しみやすくすること」や「幻想文学あるいはそれに近い分野の小説を書くための手助けとなること」を目的とし、定義にもある「超自然的な事象」＝「幻想」がどのように表現されているかを分析した。研究を進める前提として、「仮定 1：幻想文学作品では『登場人物の感情を表す語』（感情語）や『対象・事象への印象を示す語』（印象語）が多く使われ、作中の超自然的な事象がどういふのか読者に伝える」と「仮定 2：幻想文学に分類されている以上、これらの作品は必ず何らかの超自然的な事象が題材として登場している」を設定した。分析対象は「日本幻想文学事典」に掲載されており、かつ青空文庫から DL 可能な中から、一定以上有名であると判断したものを作家 1 人につき 1 作品、全 16 作品を選定した。これらの作品に仮定 1 と仮定 2 の検証を個別に行った後、仮定 1・仮定 2 それぞれの総合検証とさらにそれを踏まえての両仮定を総合した検証を行った。なお仮定 1 の検証では、テキストマイニングツールの「KHCoder」を使用して感情語・印象語を抽出した。

検証の結果、大まかに分けて「(1)超自然的な事象・存在を明確に出現させる」「(2)超自然的な事象を夢の中で描写する」「(3)正常な状態にない登場人物を主体にする」「(4)登場人物に想像させる」「(5)現実的な事象を超自然的な事象として演出する」の 5 つの超自然的な事象の表現方法のパターンが列挙できた。設定した仮定 1・仮定 2 はともに当てはまらない場合が多かったこと、特に仮定 2 に関連して作中で明確に超自然的な事象を出現させなくとも、「作中で何らかの超自然的な事象が起きている」と読者に感じさせるような演出がなされていれば、幻想文学として十分に成立することが分かった。また各パターンには(2)では「夢」、(3)では「幻覚」、(4)では「想像」といったように「幻想」と類する意味・使用法を持った言葉と強く関係するものがあつたことから、初めに述べた「幻想」の語の意味の「曖昧さ」が超自然的な事象を演出する手法の多様さに繋がっていると結論付けた。

今後の課題としては仮定 1 で検証した結果をパターン列挙に活用しきれなかったこと、また一部作品では KHCoder を用いた分析で感情語・印象語を十分に抽出できておらず、正確に同じニュアンスの語をまとめられる方法が必要なことが挙げられた。

(指導教員 長谷川秀彦)